

学校教育学専攻在籍院生研究活動状況一覧

2008年1月1日から2008年12月31日までの間に発表されたもので、本人より申告されたもののみを記載した。(※は国外で発表・報告されたもの)

《教育内容方法学分野》

緒方真奈美 (カリキュラム)

〈論文〉

- ・「異文化における『日本型』カリキュラム実践の経験—JICA『派遣現職教員』の報告書分析を中心に—」(緩利誠, 田中統治との共著), 『筑波教育学研究』(筑波大学教育学会) 第6号, 2008年3月, 103-117頁.
- ・「総合的学習のカリキュラムデザインにおける教師の『暗黙知』—A教師の単元開発を事例にして—」, 『関東教育学会紀要』(関東教育学会) 第35号, 2008年11月, 77-87頁.

板橋雅則 (道徳教育学)

〈編著書〉

- ・「日本の道徳教育論にはどのようなものがあるのか」, 吉田武男編著, 『道徳教育の指導法の課題と改善—心理主義からの脱却—』, 2008年4月, NSK出版, 総150頁, 63-70頁.

〈学会発表〉

- ・「小学校教員の修身科授業構想の変容」, 日本教育方法学会第44回大会, 愛知教育大学, 2008年10月11日.

〈その他〉

- ・「人権教育関連図書解題」, 『筑波大学道徳教育研究』(筑波大学道徳教育研究会) 特別号第9号, 2008年3月.

分担: 26-29, 32-33, 36-41, 48-49, 52-57, 62-63, 68-69, 78-79, 98-101, 104-105, 120-121, 138-139, 206-207, 214-217, 222-223頁.

小林将太（道徳教育学）

〈編著書〉

- ・「世界の道徳教育論にはどのようなものがあるのか」, 吉田武男編著, 『道徳教育の指導法の課題と改善—心理主義からの脱却—』, 2008年4月, 初版, NSK出版, 総150頁, 49-62頁.
- ・「道徳と法の異同の感覚を育てる道徳の学習: 道徳と法とともに生きる」, 江口勇治・磯山恭子編, 『小学校の法教育を創る—法・ルール・きまりを学ぶ—』, 2008年5月, 初版, 東洋館出版社, 総220頁, 151-160頁.

〈学会発表〉

- ・「L. コールバーグの認知発達アプローチにおける「自己」理論の位置づけ—特にボールドウィン理論に基づく「道徳的自己」概念に着目して—」, 筑波大学教育学会第7回大会, 筑波大学附属中学校, 2008年3月22日.
- ・「コールバーグ道徳教育論における教師の存在再考」, 日本教育方法学会第44回大会, 愛知教育大学, 2008年10月12日.
- ・「L. コールバーグの理論構築における J. M. ボールドウィンの影響」, 教育哲学会第51回大会, 慶應義塾大学, 2008年10月25日.

〈その他〉

- ・(分担執筆)「人権教育関連図書解題」, 『筑波大学道徳教育研究』(筑波大学道徳教育研究会)特別号第9号, 2008年3月, 20-21, 44-45, 70-77, 80-85, 90-91, 94-97, 102-103, 106-109, 112-115, 118-119, 124-125, 128-129, 132-133, 140-141, 144-145, 150-155, 158-161, 164-165, 168-169, 182-183, 190-191, 198-199, 202-203, 208-209, 224-225頁.

《教科教育学分野》

大高 皇 (社会科教育学)

〈学会発表〉

- ・「地理教育における教授の構造化—Engelhardの单元『ルール地帯の構造変化』を通して—」, 日本社会科教育学会, 滋賀大学, 2008年10月12日.
- ・「ドイツ・バーデン＝ヴュルテンベルク州の地理スタンダードの構成」, 中等社会科教育学会, 筑波大学, 2008年11月23日.

金 玗辰 (社会科教育学)

〈論文〉

- ・「地理的探究に基づく学習の意義—「地理教育国際憲章」を手がかりに一」, 『新地理』(日本地理教育学会), 56(1), 2008年4月, pp. 1-14.

〈研究・調査報告書〉

- ・「島嶼地域の小規模校における集合学習の成果と課題—愛媛県忽那諸島の小学校を事例に一」, 筑波大学博士課程「社会科教育学演習Ⅰ」調査報告, 『地域と教育—愛媛県松山市中島—』, 2008年12月, 65p, pp. 39-52.

〈学会発表〉

- ・金玗辰・梁炳逸, 「韓国における高校生・大学生の地理的認識」, 2008年度日本地理教育学会大会, 三重大学, 2008年7月21日.
- ※「School Education of Island Area in Japan: A Case study of the Syugou Gakusyu in Kutsuna Islands」, ISISA Islands of the World X — Globalizing Islands: Culture, Peace, Resources and Sustainability —, Jeju Island, Korea, 26 Aug, 2008.
- ※「日本の高校地理教科書における韓国関連内容の分析—国際理解教育観点から—」, 第4回世界韓国学大会, ソウル, 韓国, 2008年9月23日(韓国語).
- ・「F. Slaterの探究に基づく地理学習論の特質—教科書『人間と環境—問題と探究—』の分析を通して—」, 2008年度日本社会科教育学会大会, 滋賀大学, 2007年10月11日.

坪田益美 (社会科教育学)

〈論文〉

- ・『「深い多様性」に基づくカナダのシティズンシップ教育— WCP 社会科共通フレームワークの分析を手がかりに—』日本国際理解教育学会編『国際理解教育』VOL. 14, 26-45頁.

〈学会発表〉

- ・「カナダ社会科における『社会的結束』に基づくシティズンシップの育成—アルバータ州を事例として—」全国社会科教育学会第57回全国研究大会, 宮崎大学, 2008年10月26日.

藤井大亮 (社会科教育学)

〈論文〉

- ・「韓国公州市における「博学連携」の成果と課題—公州博物館と公州中学校の連携プログラムを中心に—」『教育と地域』, 筑波大学人間総合科学研究科学学校教育学専攻「社会科教育学演習 I」調査報告, 第 6 号, 2008年, pp. 27-39.

〈学会発表〉

- ・「歴史学習におけるオーラル・ヒストリーの実践—米国ジョージア州の“Foxfire”プロジェクトを事例として—」『日本社会科教育学会全国研究大会発表論文集』, 第 4 号, 第58回全国研究大会, 於滋賀大学, 2008年10月12日, pp. 162-163.

宮崎沙織 (社会科教育学)

〈編著書〉

- ・「身近な地域の景観から考える地域のルール—地理的分野における法に関する学習の提案—」, 江口勇治・大倉泰裕編, 『中学校の法教育を創る—法・ルール・きをまりを学ぶ—』, 2008年 5 月, 初版, 東洋館, 263p, pp. 90-100.

〈論文〉

- ・「カナダ プリティッシュ・コロンビア州における環境学習の展開—環境倫理を中心とした学習内容の転換—」, 『社会科教育研究』(日本社会科教育学会) No. 104, 2008年 8 月, pp. 86-97.

〈学会発表〉

- ・「アメリカ・カリフォルニア州環境教育における社会科系教科の役割—「EEIモデルカリキュラム」の分析を通して—」, 日本社会科教育学会第58回全国研究大会, 滋賀大学, 2008年10月12日.

田中耕司 (人文科教育学)

〈学会発表〉

- ・Kohji Tanaka, Sawa Saito, and Akira Yokkaichi 「Structural Characteristics of Reading Ability of Japanese Students With Hearing Impairments: Percentage of Correct Answers in Matching the Same Grade Reading Level」, 7th Tsukuba International Conference on Memory, Tsukuba International Congress Center, 21 March, 2008.
- ・「児童生徒の読むことの困難感の内容的変化に関する研究」, 第114回全国大学国語教育学会, 茨城大学, 2008年6月1日.
- ・「児童の読むことの困難感に関する探索的研究」, 日本読書学会第52回研究大会, 筑波大学附属学校教育局, 2008年8月3日.
- ・田中耕司・斎藤佐和・四日市章「聴覚障害児の書記表現力の評価基準作成2—教員による主観的評価の妥当性の検討—」日本特殊教育学会第46回大会, 米子コンベンションセンター Big Ship, 2008年9月20日.
- ・「児童生徒の読むことの困難感に関する研究」, 日本教育心理学会第50回総会, 東京学芸大学, 2008年10月12日.
- ・「小学生の読解力は低下しているのか?—全国調査結果報告—」第115回全国大学国語教育学会, 北九州国際会議場, 2008年11月22日.

八木雄一郎 (人文科教育学)

〈論文〉

- ・「中学校教授要目改正 (1911(明治44)年)における『国文学史』廃止の意味」『学校教育学研究紀要』(筑波大学大学院人間総合科学研究科学学校教育学専攻)創刊号, 2008年3月, pp. 55-68.

〈学会発表〉

- ・「国語講読における教授内容決定の論理—中学校教授要目改正 (1931(昭和6)

年)の成立過程に着目して一」第114回全国大学国語教育学会，茨城大学，2008年6月1日。

- ・「中学校教授要目における『講読』内容決定の根拠」第32回筑波大学日本語日本文学会，筑波大学，2008年9月20日。

劉晏君（人文科教育学）

〈学会発表〉

- ・「台湾公学校国語教科書（第三期）における教材選択の方針—国定国語教科書との比較を通して—」，第114回全国大学国語教育学会，茨城大学，2008年6月1日。
- ※「日本統治時代における台湾第四期公学校用国語教科書の特徴—日本第四期国定国語教科書との比較を通して—」，台湾日本語学会2008年度日本語文学国際学術研討会，台湾・淡江大学，2008年12月20日。

〈その他〉

- ・「資料」「日・台における国語教材の展開(1901～1941)」(甲斐雄一郎との共著)，『人文科教育研究』(人文科教育学会)第35号，2008年8月，55～69頁。

小松孝太郎（数学教育学）

〈論文〉

- ・「学校数学における action proof の意義」，『学校教育学研究紀要』(筑波大学大学院人間総合科学研究科学校教育学専攻)，創刊号，2008年3月，pp.69－87。
- ・「学校数学における action proof の発見の機能に関する一考察」，『筑波数学教育研究』(筑波大学数学教育研究室)，27号，2008年3月，pp.11－20。

〈学会発表〉

- ・「学校数学における action proof と形式的証明の関係に関する一考察」，『日本科学教育学会第32回年会論文集』(日本科学教育学会)，岡山理科大学，2008年8月22日，pp.161－164。
- ・「学校数学における action proof の機能の可能性と限界：「説明」と「発見」に焦点をあてて」，『日本数学教育学会第41回数学教育論文発表会論文集』(日本数学教育学会)，筑波大学，2008年11月2日，pp.561－566。

〈その他〉

- ・「ヴィクトリア州の学校数学におけるテクノロジーの利用(1)：第11,12学年の数学カリキュラムに着目して」,『教育科学数学教育』(明治図書), 第602号, 2008年1月, pp. 89-93.
- ・「ヴィクトリア州の学校数学におけるテクノロジーの利用(2)：視察した授業の様子より」,『教育科学数学教育』(明治図書), 第603号, 2008年2月, pp. 99-103.
- ・「図形の性質に関する証明を読む力について」,『教育科学数学教育』(明治図書), 第613号, 2008年11月, pp. 98-102.

辻山洋介 (数学教育学)

〈論文〉

- ・「学校数学における証明の構想における argumentation の機能に関する一考察：変更を伴う説明と正当化に焦点を当てて」,『筑波数学教育研究』(筑波大学数学教育研究室), 27号, 2008年3月, 31-40ページ.

〈学会発表〉

- ・「学校数学における証明の構想の意義に関する一考察」,『日本数学教育学会第41回数学教育論文発表会論文集』(日本数学教育学会), 2008年11月, 549-554ページ.

増田有紀 (数学教育学)

〈論文〉

- ・「児童・生徒の角に関する認識の深化を促す教材の開発—認識上の困難点の解消に向けて—」,『教材学研究』(日本教材学会), 第19巻, 日本教材学会, 2008年3月, pp.21-28.
- ・「学校数学における重さに関する学習指導の過程の分析—学習上の困難点の特定とその解消に向けて—」,『筑波数学教育研究』(筑波大学数学教育研究室), 27号, 2008年3月, pp. 41-50.

〈学会発表〉

- ※“Pupils’ Difficulties in Understanding the Concept of Weight”, The 32nd Conference of the International Group for the Psychology of Mathematics

Education, Morelia, Mexico, 2008年7月17-21日.

- ・「学校数学における角に関する学習指導の過程の分析—学習上の困難点からみたその課題—」, 『第41回数学教育論文発表会論文集』(日本数学教育学会), 筑波大学, 2008年11月1, 2日, pp.411-416.
- ・「学校数学における角に関する教材開発の視点—属性の抽出に焦点をあてて—」, 『第20回研究発表大会設立20周年記念研究発表論文集』(日本教材学会), 成蹊大学, 2008年11月8, 9日, pp.24-25.

稲田結美 (理科教育学)

〈論文〉

- ・「女子の科学学習促進を目指した「介入プログラム」の特質」, 『理科教育学研究』(日本理科教育学会), Vol.49, No.1, 2008年7月, 9-21頁.

〈研究・調査報告書〉

- ・「理科授業力向上プログラムの施行と展望—マイクロティーチング方式による授業づくりと現職熟達教師のその評価を踏まえて—」, 筑波大学 教員養成GP 専門職大学院教育推進プログラム平成18・19年度報告書, 『高度な授業力育成のための授業開発』(筑波大学修士課程教育研究科), 338頁, 236-261頁(大高泉・鈴木宏昭・泉直志との共同執筆).
- ・「民間施設と学校との連携によるエネルギー教育—環境エネルギー館を事例として—」, 研究代表者:大高泉, 『エネルギー環境教育実施上の特色と問題点の解決への具体的方策の解明—エネルギー教育の地域拠点大学と実践校とのネットワークを基にして—』((財)社会生産性本部・エネルギー環境教育情報センター エネルギー教育調査普及事業 筑波大学エネルギー教育研究会), 2008年3月, 183頁, 141-146頁.

〈学会発表〉

- ・「女子の理科への学習意欲を高める教授ストラテジー」, 日本理科教育学会第58回全国大会, 福井大学, 2008年9月15日.

大嵐竜午 (理科教育学)

〈研究・調査報告書〉

- ・「科学館におけるエネルギー教育への取り組み—千葉県立現代産業科学館と科

学技術館を事例に一」, 研究代表者: 大高泉, 『エネルギー環境教育実施上の特色と問題点の解決への具体的方策の解明—エネルギー教育の地域拠点と実践校とのネットワークを基にして—』(財社会生産性本部・エネルギー環境教育情報センター エネルギー教育調査普及事業 筑波大学エネルギー教育研究会), 2008年, 183頁, 141-146頁.

〈学会発表〉

- ・「実験活動における実験計画の指導法—変数の同定を中心に—」, 日本理科教育学会全国大会, 福井大学, 2008年9月.
- ・「英国理科教育における『証拠の概念』の指導法—実験計画を中心に—」, 日本理科教育学会東北支部大会, 秋田大学, 2008年11月.

鈴木宏昭 (理科教育学)

〈学会発表〉

- ・「米国理科教科書における Nature of Science の教授展開」, 日本理科教育学会, 福井大学, 2008年9月15日.

上原千恵 (学校保健学)

〈論文〉

- ・「高校生における危険行動に関わる規範意識尺度の信頼性と妥当性の検討」, 『学校保健研究』(日本学校保健学会), 第3号, 2008年8月, pp.159-165.